

これまでの利用環境WGにおける 議論の概要

利用環境WG（第三回）における指摘事項及び追加提出された指摘事項の整理

議題	意見	対応
「ユビキタスネット社会の課題と取組状況」の整理について	<p>課題の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> バージョンアップのたびに、国民が新しいものへと対応しなければならなくなる。これは、ユビキタスネット社会の課題と言えるのではないか。(大谷) ユーザインターフェースの改良の必要性及び高齢者等のための代行業という新たなサービスの登場という視点(脇浜) 	<ul style="list-style-type: none"> 100課題の中に追加
	<p>整理方法について</p> <p>【対応の充実度と社会的影響でマッピングする方法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的影響と対応策の充実度の2軸で整理は明確で分かりやすい。(堀部) 社会的影響度、対応の充実度に関しては様々な尺度がある。また対応がなされることにより、日々刻々と変化する。(東倉) その他の軸や次元もある。3次元は無理なので、色分けしてはどうか。(東倉) <p>【対応の充実度について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「法制度の有無」の部分は、性質の違うものもあり、全てについて単純に×をつけるようなものではない。(東倉) 表の網掛け部分(比較的対応されている部分)について、その基準に関して疑問。例えば、「環境」や「携帯電話のマナー」のところなど、制度はあるとしても実質的に対応が十分とはとても思えない。(佐野) <p>【社会的影響について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的影響には、「それ自体の影響力」と「一つ問題が起こるとその波及効果が大きい」という2種類が存在。(守安) 例えば「個人情報の流出」などは、対応が充実していないという意味で一番左にあっても良いような印象がある。そもそも、全体的にもっと左に寄るのではないか。(佐野) IT弱者、子供、お年寄りから見ると影響の大きさが違って来る。特に影響が大きそうな項目に関しては、そのような弱者にとっての影響を個別に考えるべき。(大谷) 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的影響、対応の充実度の要素を、それぞれ2つに細分化して整理
ユビキタスネット社会における憲章・骨子素案について	<ul style="list-style-type: none"> 憲章を作成していくことに関しては、賛成。いくつかの言語で提示するべきでは。インターネットガバナンスの在り方に一石を投じるという意義もある。(大谷) 前文では、「何のためのユビキタスネット社会か」という視点が必要。(田島) 前文冒頭に、ユビキタス社会像を述べるべき。例えば「人間が人間らしく・・・」や「人間が、仲間、社会、地球との調和のもとに、精神的・物質的にも安定した生活が出来る社会」など。(東倉) システムとしての脆弱性の問題(例：正月に携帯電話による通話が殺到しパンクする)を、「いつでもどこでもネットワークにアクセスする」の部分などに盛り込むべきではないか。(守安) 大規模災害に対応する能力を確保するという視点が重要(守安) 	<ul style="list-style-type: none"> 「憲章」の骨子素案に反映

ユビキタスネット社会に対する不安や障害

ユビキタスネット社会に対する期待の一方で、多くの不安や障害が残されているのが現実

(例)

いつでも



24時間ネットにつながっていて、プライバシーの確保は本当に大丈夫？

どこでも



電車内や病院のような場所でも使われ、他人に迷惑となって困る事例が頻出？

何でも



身の回りの情報機器全てに対し、ウィルスの心配が必要？

誰でも



田舎や高齢者・障害者でも、本当に簡単に使える時代が到来？

プライバシーやセキュリティ等を中心に
様々な不安や障害が顕在化

「影」の部分についての理解を深め、課題を整理しておくことが必要

利用環境WGにおける検討

2010年のu-Japan実現に向けた道筋として、基本原則や具体的な対応策、スケジュール、数値目標等を盛り込んだ「設計図」を提示

課題解決へ向けたフローチャート

ユビキタスネット社会の「影」について100課題を抽出

10分野、計100の検討課題を抽出し、対応策の現状を網羅的に調査

1. プライバシーの保護

項目	対応策			国際的動向	…
	法制度	組織	ガイドライン		
a. - -	法改正				…
b. - -		センター設置			…
c. - -			指針制定		…

アウトプットイメージ

政策データベースの整備

第1ステップ

概念整理

基本原則をまとめ、ユビキタスネット社会の「憲章」を検討

利用者や供給者にとっての基本原則を整理

自由で多様な情報流通

- 例)
- ・自由な情報発信の保証
 - ・自由な情報アクセスの保証
 - ・廉価な情報流通コストの維持

バランス

安全で安心な情報流通

- 例)
- ・ウィル等情報セキュリティ対策の遵守
 - ・プライバシー保護の徹底
 - ・違法・有害コンテンツの回避

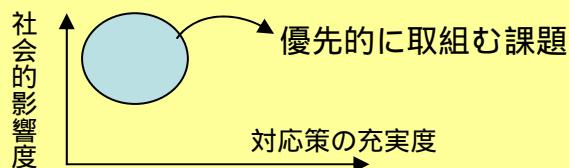
「憲章」の作成
国内外における
議論へ貢献

第2ステップ

具体策

100課題の優先度付けにより、優先的に取組む課題を明確化

社会的影響度や対応策の充実度により、優先度を定量化



具体的な対応策を検討

- 対応済み 普及啓発・PR
- 未対応 対応策を提示

対応策の打出し
各府省と連携した
政策の実行

第3ステップ